

## VII 研究発表業績

## 1 学会等研究発表

年月日	学会等の名称 (開催地)	演 題	発表者
令和元年 7月9日	令和元年度全国環境 研協議会関東甲信静支部 騒音振動専門部会 (川崎市)	茨城県における航空機騒音実態調査 について	中村主任
9月27～30日	日本陸水学会第84回金 沢大会(金沢市)	霞ヶ浦の生態系サービスの享受量の変遷と特徴	北村 主任研究員
〃	〃	北浦における貧酸素水塊と水質の変動	小室主任
10月1～5日	ISEM Global Conference 2019. (Salzburg, Austria)	Integrated modeling and long-term predictability of lakes and watersheds.	E. Komatsu, T. Fukushima, Y. Sato
〃	ISEM Global Conference 2019. (Salzburg, Austria)	A conceptual model for explaining the decadal change in tripton and its influences on limnological processes in a shallow lake.	T. Fukushima, S. Komuro, T. Kitamura, Y. Nagahama, B. Matsushita
11月1日	全国環境研協議会関東甲 信静支部水質専門部会 (静岡市)	北浦における貧酸素水塊と水質の変動	小室主任
11月14～15日	第46回環境保全・公害 防止研究発表会(津市)	霞ヶ浦におけるアオコの発生状況と その情報発信について	大内主任
11月29日	令和元年度全国環境研協 議会関東甲信静支部大気 専門部会(前橋市)	茨城県における有害大気汚染物質(六 価クロム)の分析について	沼田主任
11月29日	日本分析化学会関東支部 第16回茨城地区分析技 術交流会(東海村)	茨城県における酸性雨の推移と現状 について	吉田主任
12月3日	第56回環境工学研究フ ォーラム(仙台市)	霞ヶ浦における植物プランクトン体 積算出のための各細胞体積の検討	長濱技師
令和2年 3月8日	霞ヶ浦流域研究2020 (誌面開催)	ハス田群の環境負荷調査	佐野 主任研究員

年月日	学会等の名称 (開催地)	演 題	発表者
令和2年 3月8日	霞ヶ浦流域研究2020 (誌面開催)	北浦の貧酸素化及び栄養塩動態に関する研究	小室主任
3月16～18日	第54回日本水環境学会 年会(誌面開催)	霞ヶ浦流域の中学生の環境意識に関する調査報告—湖上体験スクール実施3年後のアンケートの分析から—	細田係長
〃	〃	牛久沼における水質等長期変動について	富永 主任研究員
〃	〃	北浦の貧酸素化及び栄養塩動態に関する研究②～鉛直連続観測による変動状況の把握～	北村 主任研究員
〃	〃	北浦の貧酸素化及び栄養塩動態に関する研究①～広域高頻度観測による変動状況の把握～	小室主任
〃	〃	霞ヶ浦における全大気降下物および湿性降下物による汚濁負荷	大内主任
〃	〃	底生動物に対するアオコの餌資源としての役割	長濱技師
〃	〃	付着珪藻による霞ヶ浦流入小河川の水質評価	古川 流動研究員

## 2 誌上发表

題 名	執 筆 者	掲 載 誌
霞ヶ浦における植物プランクトン体積算出のための各細胞体積の検討※	長濱祐美, 大内孝雄, 湯澤美由紀, 福島武彦	土木学会論文集 G(環境), 75, 7, III_273-III_280 (2019)
湿地・沿岸域に関する研究動向 4. 霞ヶ浦における植物プランクトン群集とアオコ	長濱祐美	水環境学会誌, 42 (A), 12, 436-443 (2019)
霞ヶ浦におけるアオコの発生状況と, アオコ予測システムの紹介	長濱祐美, 福島武彦	用水と排水, 62 (1), 47-52 (2020)

題 名	執 筆 者	掲 載 誌
Stratification and mixing processes associated with hypoxia in a shallow lake (Lake Kasumigaura, Japan)※	E.Masunaga, S.Komuro	Limnology, 21, 173–186 (2020) <a href="https://doi.org/10.1007/s10201-019-00600-3">https://doi.org/10.1007/s10201-019-00600-3</a>
沿岸地形と風応力が形成する複雑な密度成層構造と混合状態の高精度計測※	増永英治, 浅岡大輝, 小室俊輔, 松本俊一, 小野正人, 番場泰彰	土木学会論文集 B2 (海岸工学) ,75,2, I_217 - I_222 (2019)
An overall evaluation of water transparency in Lake Malawi from MERIS data. ※	A. Vundo, B. Matsushita, D. Jiang, M. Gondwe, R. Hamzah, F. Setiawan, T. Fukushima	Remote Sensing. 11, 279, 2019. <a href="https://doi.org/10.3390/rs11030279">https://doi.org/10.3390/rs11030279</a>
Characteristics of DO decline in Lakes Kasumigaura and Kitaura, shallow polymictic eutrophic lakes in Japan. ※	T. Fukushima, T. Kitamura, S. Komuro, K. Nakagawa, Y. Nagahama, S. Matsumoto, B. Matsushita	Lakes & Reservoirs: Science, Policy and Management for Sustainable Use. 24, 314-323, 2019. <a href="https://doi.org/10.1111/lre.12294">https://doi.org/10.1111/lre.12294</a>
Decadal change in tripton concentration in a shallow lake.※	T. Fukushima, S. Komuro, T. Kitamura, Y. Nagahama, B. Matsushita	SN Applied Sciences. 1:1637, 2019. <a href="https://doi.org/10.1007/s42452-019-1668-91">https://doi.org/10.1007/s42452-019-1668-91</a>
Long-term change of the Secchi disk depth in Lake Maninjau, Indonesia shown by Landsat TM and ETM+ data. ※	F. Setiawan, B. Matsushita, R. Hamzah, D. Jiang, T. Fukushima	Remote Sensing, 11, 2875, 1-20, 2019. <a href="https://doi.org/10.3390/rs11232875">https://doi.org/10.3390/rs11232875</a>

※：査読付き論文